

令和7年度東京都立大江戸高等学校学校経営報告

1 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学習指導

重点目標	具体的な方策
(ア) 生徒の学力向上に向けた組織的・継続的な取組の推進	①学力向上委員会を開催(定期)し、学力向上研究(校内寺子屋)事業を通して、生徒(1年次)の基礎学力の定着を図る。 ②進学対策委員会を開催(定期)し、学力テストの分析を各教科で共有し、教科指導に生かす。 ③習熟度別指導授業、少人数指導授業、授業日の空き時間、長期休業中を利用した講習等を行い、習熟度に応じた学力向上を図る。 ④教科担任とクラス担任の連携を密にし、出席率の向上を図る。
(イ) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導の充実	①教科会(月1回以上)を開催し、教科マネジメントの定着を図る。 ②教師道場や指導教諭の授業参観、研修センターや民間等による研修に参加し、授業力の向上を図る。 ③「東京都教育ビジョン(第5次)」を踏まえ、校内研修を実施し、ICT機器、学習支援クラウドサービスを活用した教育活動の充実を図る。
(ウ) 生徒の学ぶ意欲の向上に向けた学習評価の工夫・改善	①各教科で観点別評価を効果的に実施するための研究を行い、学習到達度や学習経過の評価を生徒に還元することで学習意欲の向上につなげる。 ②相互授業参観(通年)を通して、生徒理解及び教科横断的な指導の工夫・充実により自己肯定感の向上を見据えた学習意欲の向上を図る。
(エ) 言語能力の向上に向けた読書(新聞も含む)活動の充実	①授業、ホームルーム活動、年次行事等において図書館利用の推進、読書活動の活性化を図る。 ②一人一冊以上読破を目指すとともに、校内「高校生書評合戦」に取り組む。
(オ) グローバル人材の育成	①「東京グローバル人材育成計画」を踏まえ、JETやALTを積極的に活用し、異文化理解の促進を図り、英語によるコミュニケーション能力を高め、グローバル人材を育成する。

【自己評価と課題及び改善策】

- (ア) ①校内寺子屋については授業やホームルーム等で積極的に活用を促したが、利用者は限られていた(延べ 29 名(1年次 8 名、2 年次 16 名、3 年次 5 名、4 年次 0 名))。  
②進学対策委員会は2回開催した。学力テストの分析は各教科ごとに苦手問題等の分析をし授業や定期考査に生かしている。今後は委員会を定期化し分析結果を共有することで学力テストの結果を教科指導に生かしていきたい。  
③各教科科目の特性に応じ習熟度別指導授業、少人数指導授業、授業日の空き時間や長期休業中を利用した講習や補習等を行った。長期休業中の講習は、発展問題やオンライン英会話等の通常の授業では扱いにくい内容を扱う講座等、13 講座を開講し、延べ受講者数 193 名で、昨年度より6講座減、参加生徒は 35 名減であった。  
④欠時数の多い生徒については教科担当から直接または担任を通して連絡を行い改善を促した。履修率平均83.0%(昨年度より4.6%増) 修得率81.7%(昨年度より3.8%増)であった。
- (イ) ①全教科で教科会を定期化、観点別評価について評価方法の共通化を行うことにより、組織的な体制を整えることができたが、教科マネジメントの定着に向けて教科会の充実が課題である。  
②校内で教師道場のリーダーによる模範授業を実施し、多くの教員が参観した。また、各教員ごとに教科の研究団体の研修に参加した。学んだ内容を授業改善にいかすことが課題である。  
③ICTについては、内容は教科により、書画カメラによる参考作品の画像データの提示、制作プロセスの動画視聴、OneNote 活用、生徒の課題進捗状況把握、ICT 活用方法の教員間での共有等、様々であるが、各教科とも積極的に活用した。また、研修はオンライン、対面、e ラーニング等様々な形態で夏季休業中を含め 12 回実施した。教科内で研修をした教科もあった。
- (ウ) ①各教科の特性に応じて、観点別の得点状況を生徒に明示し、学習到達度を知らせたり、ワークシートの提出とそのフィードバック、生徒による相互評価、ルーブリック作成、観点別評価の点検改善等を行った。また、評価方法については適宜見直し適正な評価ができるようにしている。今後は、一人一台端末を含む ICT 機器の活用により学習課題の配付・提出、生徒の学習経過・到達度や理解度等を多面的に把握等、教科の特性に応じ効果的な機器の活用を推進し、生徒の学習意欲をより向上させることが課題である。  
②各教科で相互授業参観を実施した。教科によっては他教科の授業見学にも積極的であったが、個人差が課題である。今後はさらにこれを推進していく必要がある。
- (エ) ①授業等における図書館利用として、本校生徒のポプラ社「全国学校図書館 POP コンテスト」に応募、総合的な探究

の学習における図書室の利用、朝日新聞の「朝日けんさくくん」の活用等があげられる。②貸出数は3,933冊(生徒3,021冊、教職員912冊、昨年度より17%減少)、また、高校生書評合戦は校内コンテストで代表生徒を選出した。

(オ) ①英語の授業において JET と教材を作成する際、日本の文化との比較事項を取り扱うよう指示をした。取り扱う内容については、考查ごとに生徒からアンケートをとり、より生徒の興味関心を高める内容になるよう努めた。

【学校評価アンケート結果より】  
各質問に対する肯定的回答の割合が次の通りであった  
「多くの体験的な学習活動が行われている。」(生徒)91%、(保護者)86%、(地域)%  
「授業に意欲的に取り組んでいる。」(保護者)80%  
「教材や教え方に工夫がされていて、授業の内容は分かりやすい。」(生徒)83%

## イ 生活指導

重点目標	具体的な方策
(ア)安全・安心な学校生活の推進	①全教職員による授業規律を徹底し、落ち着いた学習環境を整える。 ②授業開始と終了の時間を徹底して生徒の時間を守る意識を高める。また、終始のメリハリをつけるために挨拶を励行する。 ③いじめに関する調査を実施し、いじめ対策サポーターも活用し、いじめの未然防止・早期発見・早期解決を徹底する。
(イ)生徒一人一人の社会的・職業的自立の実現に向けた規範意識(生活習慣、身だしなみ)の育成	①生活指導基準を基に、全教職員による統一した生活指導(遅刻防止、頭髮及び服装等)に取り組む。 ②公共の場や学校生活を送る上でのルールやマナーを厳守させ、規範意識を高める。特に、全教職員の指導によるSNSルールの徹底を図る。
(ウ)生徒一人一人に応じたきめ細やかな組織的指導の徹底	①教育支援委員会の参加メンバーを全ての年次分掌に拡大し、毎週開催することで各生徒の状況を早期に把握・共有し、生徒の状況に応じた自己肯定感の向上を見据えた指導体制を構築する。 ②SC、YSW、その他専門機関と連携し、中途退学や不登校の未然防止を図り、生徒の自立につなげる。 ③1年次の二人担任制、2年次生以上の担任と副担任の連携(平常時定期的に担任の代わりにSHRを担当することも含む)により、多面的な生徒支援を継続して行く。
(エ)校内美化環境配慮した意識と実践力の向上	①委員会活動を中心に、校内美化に努めるとともに、節電、省エネに向けた意識と実践力の向上を図る。

【自己評価と課題及び改善策】

(ア) ①授業規律を徹底について、生活指導部から発信し、問題点等意見交換を行い、スマートフォンのルールや水分の取り方、防寒着の着脱等細かいところまで意見交換を行っている。  
②クラスでは、号令係やHR委員の号令で、授業の開始・終了の挨拶を行っている。  
③年3回のアンケートを行い、生活指導部会や教育支援委員会、学校いじめ対策委員会における生徒情報共有により、総合的に生徒の状況を把握し、いじめの未然防止・早期発見・早期解決を徹底している。

(イ) ①生活指導部会にて、生徒情報を共有し、生徒の指導方法を段階的に検討し実行している。  
②マナー違反等、生徒情報を整理し、生活指導部会や、教職員打ち合わせで注意喚起を行っている。SNS指導は、年度当初からHR単位等で行事の前などを利用し繰り返し行っている。

(ウ) ①毎週金曜日に教育支援委員会を開催し、年次・分掌ごとに共有すべき生徒情報を集めた。またSC・YSWの面談記録も共有した。情報に挙げた生徒対応について生徒の安全や自己肯定感を高める対応を提案し合い、協議をし、必要な支援を行うことができた。  
②SC・YSW面談や別室指導対応をきっかけとし、児童相談所や保健所をはじめとした外部機関につなげることができた。特にYSWの面談では、保護者も交え登校や進路に関する相談を丁寧に実施することにより生徒の自立につなげることができた。  
③副担任はHRやLHRだけでなく、文化祭準備期間及び文化祭・遠足など学校行事にもかかわることにより生徒と信頼関係を構築することができた。担任以外の教員がかかわることにより多面的な生徒支援をすることができた。

(エ) ①講座ごとに教室が変わるため、生徒間の思いやりから、机上の「消しゴムかすを捨てる」ルールが浸透している。また、教室の最終退出の場合消灯するなどの意識を待たせる声かけも継続していく。

【学校評価アンケート結果より】  
各質問に対する肯定的回答の割合が次の通りであった  
「挨拶など基本的マナーを身に付けるよう指導が行われている。」(生徒)81%、(保護者)69%、(地域)57%

「頭髪・服装などの身だしなみの指導がしっかり行われている。」(生徒)85%、(保護者)86%、(地域)74%  
「大江戸高校の生活指導を理解している。」(生徒)91%、(保護者)88%  
「校則について、見直しの必要性を感じている。」(生徒)51%、(保護者)27%、(地域)%  
「いじめの未然防止のため、早期発見に積極的に取り組んでいる。」(生徒)75%、(保護者)49%、(地域)%  
「大江戸高校の生活指導に期待している。」(地域)83%

## ウ 進路指導

重点目標	具体的な方策
(ア) 自己肯定感の向上、コミュニケーション能力、社会性の育成を踏まえたキャリア教育の充実	①キャリア教育全体計画を基に、組織的なキャリア教育を実践する。 ②キャリア教育推進委員会を中心に「チャレンジ指定科目」の指導内容・指導方法を常に検討し、改善を図る。 ③計画的・系統的なキャリア教育の取組を通して、自己理解を深めることで自己肯定感の向上を見据えた自己将来設計につなげる。
(イ) 3修制、4修制に配慮した進路指導体制の確立	①ガイダンスの実施とともに、ハローワーク等の外部機関との連携を深め、進路指導の充実を図る。 ②学力テストによる学力の推移の把握、資格取得の奨励など組織的な取組を生かした進路指導を行う。
(ウ) 個々の希望進路の実現に向けた組織的な指導の充実	①特別な支援を必要とする生徒に、合理的配慮を踏まえた組織的な就労支援体制等を構築し、卒業後の移行支援を見据えて指導する。 ②特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援学校のセンター的機能を活用した進路指導の充実を図る。 ③進路指導部、年次(複数担任制及び担任と副担任の連携)、教育支援委員会等が綿密に連携することで本校での卒業を大切にし、進路未定者を減らす。

### 【自己評価と課題及び改善策】

- (ア) ①定例の進路指導部会を週に一度開催し、年次間の情報引継ぎ・見直しに努めた。都の自立支援プログラムなどを活用し、外部と連携し社会性の育成に努めた。  
②昨年度実施した外部との連携事業(ニトリでの職場体験)を取りやめ、無理のない活動計画を作成した。  
③毎週金曜日に教育支援委員会を実施し、年次より配慮が必要な生徒の情報共有を受けている。進路変更を希望する生徒に関してはYSWにつなぎ、進路についての相談を促した。また、学力テストや各種の検査を勧めることで、生徒が自己の適性や可能性を理解し前向きに行動するための支援を行った。
- (イ) ①ハローワークの就職支援ナビゲーターと連携し、就職指導を計画的に実施した。進路ガイダンスを計画的に開催し、多岐にわたる進路希望に対応できる体制を整えた。  
②ベネッセの学力テストを1～3年次全員を対象に実施した。学力上位層には河合塾の模擬テストの受験を勧め、個に応じた指導を行っている。
- (ウ) ①今年度は該当する生徒はいなかった。  
②今年度は該当する生徒はいなかった。  
③進路未定者 23 人(2 月 17 日現在)いる。課題として、アルバイトを希望し、就職や進学に向けて活動しない生徒が一定数存在すること、特に卒業のみを目標とする生徒に対する指導・支援が必要であることがある。

### 【学校評価アンケート結果より】

各質問に対する肯定的回答の割合が次の通りであった

「進路指導は十分行われている。または期待している。」(生徒)88%、(保護者)74%、(地域)65%

## エ 特別活動・部活動・その他

重点目標	具体的な方策
(ア) 生徒会活動、学校行事の取組	①コロナ以前に近い生徒会活動、学校行事ができるよう取り組む。 ②生徒が生徒会活動や行事に主体的に参加できるように導き、楽しさを実感できるようにする。
(イ) 生徒の自己肯定感及び社会性を高める活動の充実	①年次集会や部集会を活用し、講話や生徒会からの情報発信等を通して自己肯定感を高めるとともに、心だけでなく体力にも注目して自己肯定感の向上を目指し、大江戸生としての自覚と連帯意識を育む。 ②部活動加入を促進し、生徒の体力や気力の向上を図るとともに、達成感や満足感を体験させることで、自己肯定感を高め、主体的に活動することの意義を感じさせ、リーダーの育成を

	<p>図る。</p> <p>③地域における生徒会活動、部活動により自己肯定感や社会性を高める。</p>
(ウ) 地域と連携した防災教育の充実	①地域と連携した避難訓練等を実施し、社会連帯の精神と責任を重んずる態度を育成する。
(エ) 体罰、暴力的指導、行き過ぎた指導のない部活動指導の徹底	<p>①部活動の顧問教諭は、部活動の「指導方針等」を作成し、生徒・保護者に対して説明を行い、さらに保護者に対して指導状況の参観の機会を設ける等体罰防止に向けた取組を行う。外部指導員については、経営企画室を含めて委嘱・承諾を適切に行う。</p> <p>②体罰について、実態調査とともに校内研修を行う。</p>

#### 【自己評価と課題及び改善策】

- (ア) ①行事は、コロナ以前より活発な生徒会活動・学校行事が行われている。生徒会は週1回の定例会を行い、年間を通じて計画的に活動している。
- ②「みんなが楽しめる体育祭」「みんなに負担が少ない飛翔祭」と主体的に取り組めるように実行委員会の活動を行っている。生徒会もすべての行事に協力できるような、体制を考え動いている。
- (イ) ①日々の生徒の活動で成果を評価し、自己肯定感を高めるとともに、継続する体力・気力向上を目指すために、短期目標を示し取り組む集団を育てている。
- ②前年度末より、部長会にて新入生への部活動紹介の企画をたて、入学生への部活動勧誘を全部活動でおこなっている。体験入部期間を設定し、4月末の一斉委員会にて入部を確定し、計画的に生徒間で相談しながら進めている。
- ③生徒会執行部による、江東区の都立学校紹介、ボランティア参加、部活動により区民祭り地域のイベント参加により、自己肯定感や社会性を育成している。
- (ウ) ①地域と連携した避難訓練は実施できなかった。
- (エ) ①運動部は、大会参加時が、文化部は文化祭の発表時が保護者参観の機会となっている。指導方針等は、年度当初の一斉部集会に部員確定時に保護者にも開示できるようにしたい。外部指導員については、体罰防止等の研修が必須になっており、適切に行っている。
- ②いじめアンケートからも実態を把握し、校内研修を行った

#### 【学校評価アンケート結果より】

各質問に対する肯定的回答の割合が次の通りであった

- 「大江戸高校に行くのが楽しい(楽しそうだ)。(生徒)74%、(保護者)77%、(地域)65%
- 「大江戸高校に入学して、物事に前向きに取り組むようになった。(生徒)83%、(保護者)89%
- 「大江戸高校に入学して(させて)良かったと思う。(生徒)85%、(保護者)96%
- 「大江戸高校を応援したい。(地域)87%
- 「生徒は部活動や生徒会活動に積極的に参加している。(生徒)71%、(保護者)62%、(地域)61%
- 「教員は部活動や生徒会活動の指導に熱心に取り組んでいる。(生徒)85%、(保護者)66%、(地域)61%
- 「学校行事(文化祭等)は楽しく充実している様子が見える。(生徒)86%、(保護者)88%、(地域)74%
- 「防災について積極的に取り組んでいる。(生徒)76%、(保護者)59%、(地域)87%
- 「体罰や暴言をなくすために、積極的に取り組んでいる。(生徒)85%、(保護者)55%

### オ 健康づくり

重点目標	具体的な方策
(ア) 体力向上に向けた取組の充実	①「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、授業や部活動などを通して、総合的な基礎体力の向上を目指すとともに、人生100年時代に向けて、楽しみながら自ら体力を高めていく習慣を身に付けさせる。
(イ) 多様な生徒に対応した自己肯定感を高められる教育相談体制の確立と事故防止に向けた取組の推進	<p>①心と体の健康づくりへの組織的な取組を行い、自己肯定感の向上を図ることで命の大切さを伝えるとともに、SOSの出し方に関する教育を行うことで生命に関わる事故の未然防止を図る。</p> <p>②「特別支援教育の推進について」の趣旨を理解し、合理的配慮を踏まえて「精神科医による校医事業」「特別支援教育心理士巡回相談事業」「通級指導」「校内別室事業」を活用するとともに関係機関との連携を図ることで教育相談体制を強化することで学校に通いやすくする。</p>
(ウ) 健康づくりに向けた組織的な指導の充実	<p>①学校保健計画に基づき、生徒・保護者の主体的な意識の向上に向けた指導の充実を図る。</p> <p>②心と体の健康づくり(自己肯定感の向上含む)、食物アレルギー等の健康課題を理解するための校内研修を実施し、組織的・具体的な指導を行う。</p> <p>③生徒に対し、薬物乱用防止教室、情報モラル・リテラシーに関する教室、交通安全教室等を通して指導する保護者にも保健だよりや年次通信の配布等により、子供理解のための支援を</p>

	行う。
(エ) 学校給食を活用した食育の推進	①給食費負担軽減事業（無償化）による喫食生徒の増加に対応しつつ、栄養職員、給食担当教員、クラス担任等を中心に、学校給食を活用した食育の一層の推進を図る。給食だよりを通して、食に関する知識と正しい食生活について理解を深めさせるとともに、食の楽しさを伝える。

<b>【自己評価と課題及び改善策】</b>	
(ア) ①体育の授業で3年間7単位を習得する中で、基礎体力向上を目指し、体幹・持久力のアップを意識した授業内容を工夫している。生徒は入学前必ずしも体を動かす機会があったものではないことを踏まえ、体育の授業や運動系部活動で、その内容を工夫し、改めてスポーツの楽しさを実感させた。	
(イ) ①校長講話や年次行事、生活指導部からの講話等で命の大切さを伝え、生命にかかわる事故防止を図っている。1年次において、「命の大切さを学ぶ教室」を行い、貴重な講演から「生命」の尊さを学んでいる。また、生徒や保護者が心身の相談をしやすくするために各専門家への相談方法を周知するとともに、日頃から生徒の状況を見守る目を持ち安全に学校生活を送れるよう教育支援委員会を中心に協議を重ね対応した。	
②「精神科医による校医事業」「特別支援教育心理士巡回相談事業」について周知し、利用を促している。精神科校医から教員が、医療面での知識を学ぶとともに生徒対応の指導助言を受け、必要な際は生徒を医療へつないでいる。「通級指導」新規希望者は5名であった。「校内別室事業」は担任を通じて生徒への利用を促し、数名が利用している。	
(ウ) ①学校保健計画に基づき、各行事や季節ごとの健康管理について周知や指導を行い、心身の健康課題については個別指導に重点をおいて実施した。	
②全校生徒に保健調査を実施し、個々の健康状態を教職員で把握した。医療面でのケアを必要とする生徒について校内研修を実施し、救急体制を整えた。	
③全校生徒を対象に薬物乱用防止教室を開催し自身を大切にす意志や正しい規範を育成した。	
(エ) ①SDGsの観点も伝えつつ喫食率の向上を図り、給食の時間を中心に食べ物を大切にす感謝の心や栄養バランスに気を付けて食べることを指導した。また、担任を中心に給食担当の教員と連携を図ることで、給食の需給手続きの忘れを未然に防止する声掛けを積極的に行った。	
<b>【学校評価アンケート結果より】</b>	
各質問に対する肯定的回答の割合が次の通りであった	
「先生やカウンセラーに気軽に相談できる。」(生徒)78%、(保護者)76%	
「生徒の健康や安全に積極的に取り組んでいる様子が見える。」(生徒)88%、(保護者)82%	

## カ 募集・広報活動

重点目標	具体的な方策
(ア) 募集・広報活動の活性化	①総務部を中心に、ホームページ等を介して学校情報を積極的に発信し、応募倍率の向上に向けた組織的な取組を行う。 ②学校見学会、体験授業、学校説明会、募集要項説明会等の計画的な実施。 ③退職教職員等ボランティアを活用し、平日における個別学校見学を実施する。 ④各種お知らせや行事の様子等をホームページ等に掲載し、在校生保護者、中学生やその保護者に対して教育活動の周知を図る。

<b>【自己評価と課題及び改善策】</b>	
(ア) ①ホームページ更新とLINE 配信を連動させた情報発信を行った。更新は受付1ヶ月前及び受付開始時に配信したことで、情報周知の効果が向上した。	
②昨年度の課題を改善し、年間計画及び実施要項を策定し、計画的に実施した。一部行事が中止となったが、新規取組と文化祭での本校紹介のイベントを行うことで、参加者への丁寧な対応に努めた。	
③従来の退職ボランティアによる実施ができず、専任職員による実施で取り組んだ。参加人数は昨年と同程度であったが、丁寧な対応で対応することができ効果があった。しかし、専任職員の負担増となったので、次年度改善をしたい。	
④生活指導部が中心となり、部活動紹介のリニューアルへの取り組みを開始した。次年度も継続して行う。行事の紹介も入学式のみで終わっているため、次年度全校取り組みの学校行事等については、積極的掲載していく。	
<b>【学校評価アンケート結果より】</b>	
各質問に対する肯定的回答の割合が次の通りであった	
「学校の情報が広報誌や行事を通して地域に伝わっている。」(地域)43%	

キ 学校経営・組織体制

重点目標	具体的な取組
(ア)組織的・計画的な学校運営	①企画調整会議を中心に、主幹教諭、分掌等主任、経営企画室が一体となった学校運営に取り組む。 ②校内研修やOJTを通して、目指す学校像及びグランドデザインの共通理解を図り、一貫した協働的指導体制による学校運営に取り組む。 ③学校経営計画の実現に向け、経営企画室としての機能強化を図る。
(イ)服務事故の根絶	①各学期研修を実施するとともに服務事故防止面接を実施する。 ②保有個人情報安全管理基準を見直し、内容を教職員に周知徹底する。 ③クリーンデスクを奨励する。
(ウ)ライフ・ワーク・バランスの推進	①「学校における働き方改革の推進プラン」「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づき、会議の短縮化、定時退庁を推進し、時間外勤務の縮減を図る。 ②年次有給休暇年間20日取得、1か月45時間超の教員減少(前年度比)に取り組む。 ③ストレスチェック「仕事のコントロール」「職場の支援」の値をそれぞれ100以下にする。 ④男性の育児休業取得を推進する。 ⑤「東京都教育ビジョン(第5次)」に基づき、業務の軽減や効率化に向けデジタルの活用を推進する。
(エ)自律経営推進予算の有効活用と学校環境の整備	①予算の有効活用と一般需用費におけるセンター執行率の向上を図る。 ②施設・設備の安全確認、効率的利用の観点から校内外を巡視するとともに、より安全・安心な学校環境の整備を図り、不備による事故をゼロとする。
(オ)安全管理、危機管理体制の整備	①施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。 ②非常時を想定した実地訓練を行う。
(カ)新学習指導要領の実現に向けた取組の推進	①グランドデザインを基に、目指すべき生徒の将来像の実現に向けた教育実践について、全教職員で共通理解を図る。新学習指導要領の実現と教育目標を効果的に達成するための教育課程を編成する。

【自己評価と課題及び改善策】

- (ア) ①校長の学校経営を企画調整会議を中心に、主幹教諭、分掌等主任、経営企画室が一体となって支え、適切な学校運営ができた。  
②必要に応じて様々な校内研修と日常的なOJTにより学校運営に必要な技術と意識を培うことができています。  
③学校経営計画の実現に向け、経営企画室の業務分担を見直し、機能強化を図った。予算執行状況の定期的な報告、施設管理の効率化、各分掌との連携強化により、学校運営を支える体制を整備した。
- (イ) ①各学期の校内研修と服務事故防止面接を適切に実施した。  
②保有個人情報安全管理基準の変更は行わなかった。  
③クリーンデスクについて必要に応じて注意喚起した。
- (ウ) ①定時退庁日を定めるなど定時退庁を推進したが成果については課題が残っている。しかし、時間外勤務は縮減した。  
②年次有給休暇年間取得日数の平均は17.5日にとどまったが、1か月45時間超の教員の延べ人数は61名で、前年度比42名減少した。  
③ストレスチェックの健康リスクの数値は「仕事のコントロール」が99、「職場の支援」が88で総合が87であった。  
④取得した職員はいなかった。  
⑤各種調査の電子化等に取り組んだ。
- (エ) ①各分掌からの予算要望を取りまとめ、優先順位を明確にした上で効率的な予算配分を行った。定期的に執行状況を確認し、年度末に向けた計画的な執行管理を徹底した。センター執行率は昨年度61%で今年度は60%であった。  
②施設・設備の点検及び校内外の巡視を定期的に行い、状況把握や不備箇所の早期発見に取り組んだ。発見した不備については速やかに修繕・改善を行い、安全な環境を維持した。校内関係部署及びTEPRO等と連携し、迅速に対応した。
- (オ) ①施設・設備の安全管理体制を整備するため、定期点検における校内分担及び点検項目を明確にした。  
②年4回の避難訓練の他、校内への不審者侵入への対応訓練を行った。
- (カ) ①教育課程の見直しは実施しなかった。

【学校評価アンケート結果より】

各質問に対する肯定的回答の割合が次の通りであった

「大江戸高校は教職員間の連携がとれている。」(生徒)67%、(保護者)58%

「施設・設備は整っている。」(生徒)84%、(保護者)82%、(地域)74%

## (2) 数値目標

ア 生徒による授業評価において、満足度、理解度 70%以上。

【数値結果等】満足度、理解度は 90.5%

イ 教員による相互授業参観を学期 1 回以上、ICT 機器、学習支援クラウドサービスの活用推進に向けた校内研修を年間 2 回以上

【数値結果等】教員による相互授業参観は、概ね実施できており、学期に 2 回 3 回と積極的に行う教員も多かった。研修はオンライン、対面、e ラーニング等様々な形態で夏季休業中を含め 12 回実施した。

ウ 1 年次の基礎学力テストで、英語、数学の学力段階 D3 を 30%以下、C 以上を 30%以上

【数値結果等】1 年次 1 月実施のテスト結果 D3 以下 英語 24.4% 数学 29.7% C 以上 英語 45.4% 数学 46.6%

エ 検定合格を奨励し、検定合格者 150 名

【数値結果等】検定合格者 151 名

検定合格が大学や専門学校への進学にどのように有利になるかを、ガイダンスや個人面談などで周知した。検定合格のモチベーションを向上させた。また、各教科で関連する検定を奨励したり、補習や夏季講習で取り上げるなどして取り組んだ。

オ 生徒の進路決定率 80%以上

【数値結果等】進路決定率 85.4%

カ 学校行事、年次行事の生徒参加率 80%以上

【数値結果等】体育祭出席率 79.2%、文化祭出席率 89.9%

キ 部活動加入率 45%以上

【数値結果等】部活動加入率 49%

新入生歓迎会とともに部活動勧誘を行っている。定着率に問題はあがるが、途中から入部、兼部する生徒もいる。

ク 学校説明会の参加者 800 人以上、個別学校見学 150 人以上

【数値結果等】学校説明会 866 人 個別学校見学（平日学校見学に名称変更）113 人

ケ 入選倍率 1.2 倍以上

【数値結果等】受検倍率 1.31 倍

外部説明会、外部個別相談、学校見学、説明会、募集要項説明会での取り組みを通して、1 クラス増であるにもかかわらず倍率を出すにいたった。

コ 給食喫食実際の食数率（喫食数/調理食数）70%以上

【数値結果等】給食喫食実際の食数率 75.1%

食育リーダーから喫食者へ、予約締切日等を繰り返し周知した。また、例年食数率が低くなる考査期間の予約について、喫食者へ注意喚起を行った。新予約システム導入に伴い、年次クラス別の休食日を登録し、予約間違いの減少に努めた。

サ ホームページ等の更新を年間 65 回以上

【数値結果等】142 回

LINE による情報発信も含んでいる。

シ 自律経営推進予算のセンター執行割合 60%

【数値結果等】60%